

## 令和8年度 社会福祉法人 進和学園 事業計画

社会の少子高齢化は、想定よりも早く進行しているとされ確実に人口減少社会に向かっています。全産業における人手不足感から、人材の確保・定着・育成の困難さは増す一方で、さらに世界情勢の混迷から物価高騰が追い打ちをかける状況となっています。今後、社会保障の財源確保も懸念されるどころです。そのような不透明な時代ですが、業務改善と効率化を図り、ICT化、AI技術を活用するなど創意工夫をもって新しい時代に対応していきたいと思えます。

障がい部門の障害福祉サービス等報酬改定は3年ごとに実施され、次回は令和9年度となりますが、令和8年度に臨時報酬改定が実施されます。処遇改善加算の増額が見込まれる改善方向の一方で、就労継続支援B型の基準単価切り下げ、営利企業等の新規参入が過多となっている事業の総量規制的な対策が初めて盛り込まれるなど障害福祉事業の膨らむ予算を抑制する改定となっています。基本報酬に加えて加算を取得しないと運営費の維持が難しくなることに加えて減算項目が増える報酬体系は細分化、複雑化していく傾向にあります。

そのような制度の中で、利用者ご本人の意思決定支援を基本に、日中活動の充実、障害者支援施設の地域移行への取組み、就労支援のチャレンジと工賃向上、相談支援の推進、発達支援の療育など、多岐にわたる活動の推進を図ります。年を経るごとに利用者ご本人の高齢化、重度化によるリスクは高まる場所ですが、健康と安全を第一に暮らしを守り、日中活動支援、余暇支援のさらなる充実を図ります。入所施設は引き続き短期入所を充実して、在宅者の生活を支える地域生活支援拠点の機能、役割を担い、グループホームは支援体制の多様化を図ります。権利擁護、虐待防止については、人権・虐待防止委員会を中心に各施設で引き続き取り組んでまいります。進和学園が今まで取り組んできた活動から、利用者ご本人のライフサイクルにおいて必要な時期に、必要な支援を受けられるようなセーフティーネット体制のサービスを整備し、ご本人の意思決定支援のもと、選び直しが出来る循環型サービスを地域の中で構築することを引き続き推進してまいります。

保育園部門は、「こども家庭庁」の子育て支援政策の後押しを受けて、いずみ・富士見・しらゆりの3園は連携を図り、地域の期待、保護者のニーズに応えます。地域子育て支援拠点事業「どれみ」は週の開所日を1日増やして週5日開所とします。引き続き子育て支援の推進に市行政と連携して努めてまいります。

放課後等デイサービス部門と学童保育部門については市行政、学校と連携するとともに子育て・療育・家族支援に取組み、法人各部門と協力して放課後、長期休み期間の保育の推進に努めてまいります。また地域の子どもたちの表面化しにくい課題の発見、解決に向けて、「こどもスペース∞（無限大）」を拠点に相談機能を駆使してアウトリーチで引き続き推進してまいります。特にしんわブライトでは神奈川県より「湘南西部障害保健福祉圏域 発達障害支援体制整備事業」を令和8年度から受託し発達障害者地域支援マネージャーの役割を担います。

人材の確保、定着、育成については、社会的にも全産業で大きな課題となっております。特に新卒採用は学生数の減少により年々厳しさを増しています。中途採用も含めて広くアンテナをはり、障がい、保育、学童の各部門の連携で進めます。今後の見通しから障がい部門では外国人材の採用を進めてまいります。福祉の仕事が「ともに成長できる、魅力ある職場」であるという発信に努め推進してまいります。

進和学園は地域・社会に支えられ68年目を迎えます。本年度も「本人中心」の理念を徹底尊重し、利用者ご本人、子どもたちの幸せとご家族の安心のために職員一丸となって取り組むとともに、地域の社会資源として「福祉のまちづくり」「防災・減災」について貢献し、「ともに生きる」社会の実現を目指してまいります。

### 《重点的に法人・施設で取り組む課題》

#### 1 進和学園の中長期計画の作成について

利用者ご本人のライフサイクルの中で、年齢、健康面、仕事(日中活動)、環境等に応じて変化していく必要な支援を切れ目なく支えるためには、各施設・事業所・グループホームの機能、役割分担を明確にしてセーフ

ティーネットが整った総合的な循環型のサービス支援体制が必須となります。そのサービス体系を法人内ネットワークで構築し、関係専門機関等との連携をもって推進する中長期計画を策定します。特に国際連合の障害者権利条約や国県市の障がい福祉計画、令和6年度報酬の中で見られた方向性を考慮しながら、利用者ご本人の真のニーズに叶う中長期計画の策定を進めてまいります。特に、万田・高根地区の総合的な再整備については、土砂災害警戒区域で急傾斜地の下にある「しんわやえくぼ」の安全対策、進和やましろホーム（築40年）及び進和あさひホーム（築35年）の老朽化対策をふまえて中長期計画の中で慎重に進めてまいります。

## 2 福祉人材の確保・定着・育成について

少子高齢化と人口減少が進む中、福祉分野の人材確保は一層厳しさを増しており、今年度も法人・施設長会と採用人事サポートチームが連携して、新卒採用の強化や入職前後のフォロー体制と定着研修を推進します。保育人材については、障がい部門と保育部門が協力し、養成校訪問や実習生受け入れ、インターンシップの拡充を図ります。また、中途採用はシニア・セカンドキャリア層も加え、外国人材の採用を実現化させ、多様な人材が活躍できる体制を整えます。

人材育成では、関係委員会が中心となり、階層別研修や資格取得支援、DX化に対応した研修を充実させ、成長を支える環境を整備します。定着支援としては、スーパーバイザー方式の継続やキャリアパスの明確化を進め、働き続けやすい職場づくりを推進します。人事考課制度は運用10年目、管理職評価は9年目を迎え、社会情勢や働き方の変化に応じて公平性・透明性の向上に向けた見直しを継続してまいります。

## 3 給与体系の見直しについて

最低賃金の上昇とともに、全産業の平均賃金の水準が上昇しています。福祉サービスの基本報酬は公定価格で決められているため利用料に上乘せすることは出来ません。国の福祉・介護職員・保育士に係る各処遇改善加算の財源の活用を図り、給与体系(基本給、各種手当、賞与等)の見直しを適切に図ります。

## 4 地域の困りごとの発見、解決に向けた相談体制について

昨今、地域の支え手が減り、人々のつながりが希薄になる傾向は続いています。少子高齢化、核家族化、人口減少のほか、労働力不足に伴う定年の延長、再雇用などによる現役時代の延伸や共稼ぎ世帯の増加により、生活全般にわたって異世代間交流が減り社会的価値観のすり合わせはむずかしくなっています。地域社会のありようが変わっていく中、格差社会、生活困窮、ヤングケアラーなど生活の中で直面する困難、生きづらさは多様化、複雑化しています。平塚市支援対象児童等見守り強化事業(居場所型)「こどもスペース∞(無限大)」と、しんわルネッサンスが認定された生活困窮者自立支援法で規定される「認定就労訓練事業」を通して、地域の隠れた課題、困りごとの発見、相談、解決に取り組めます。推進に当たっては市町村の支援機関、地域の関係者と連携してまいります。

## 5 公益的な取組について

在宅障がい者に対する生活支援、平塚市民の花なでしこの苗栽培と無料配布、湘南平清掃・あじさい管理、地域子どもたちの陶芸体験教室、地域ふれあい交流事業、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力、子ども食堂への協力、市内保育園等への訪問コンサートに取り組んでまいります。

## 6 本人活動の推進について

進和学園の活動は「本人中心」の理念のもと、利用者ご本人、しんわ本人自治会連合会及び各施設の本人自治会活動とともに、地域、社会と連携して推進してまいります。文化・スポーツ活動、余暇活動の充実にも努めてまいります。

## 7 業務改善と生産性の向上について

福祉の現場においても生産性の向上、職場環境の改善が求められています。生産性向上委員会を設置して業務の効率化、役割分担の適正化、経費削減、ICT化、AIの活用等を検討するとともに、ボトムアップ型の風通しの良い職場を推進します。

## 8 運営システムや IT の活用等について

業務効率化と情報共有の迅速化を目的に、今年度も運営システムを含む IT 活用を一層推進します。業務の ICT 化を進めることで、省力化や経費削減、環境負荷の軽減につなげ、法人全体の連絡調整機能の向上を図ります。法人内外の会議ではオンライン化が定着し、移動時間や会議時間の削減に効果を上げていますが、対面が必要な場面も踏まえ、内容に応じて最適な方法を選択します。また、職員のデジタルスキル向上にも取り組み、オンラインツールやデジタル技術を活用できる体制を整え、生産性の向上と働きやすい環境づくりを進めてまいります。

## 9 地域連携推進会議の設置について

入所施設・グループホームに地域連携推進会議の設置を令和 7 年度より義務化され、ご本人、ご家族、地域の方、福祉に知見のある方を構成員として就任いただき昨年度実施しました。令和 8 年度も引き続き地域と共に施設運営の推進を図ります。

### 《重点目標 各施設の管理運営面》

#### 1 保育園部門の運営について

「保育所等における ICT 化推進事業 (ICT 補助金)」で導入した「株式会社コドモンのシステム」は、PC 等を増やすなど環境を充実させることで更に保育士の業務負担の軽減を図るとともに、保護者にとって必要な情報を把握しやすくなる様に努めます。

地域子育て支援拠点事業の「つどいの広場どれみ」は、週の開所日を 1 日増やし (週 4 日から月・火・木・金・土の週 5 日)、地域の子育て中の親子が集う憩いの場としての充実に努めます。

また、引き続き保育士の資質の向上・確保に向け、積極的に研修等への参加、実施に努めます。

保育活動については、保育所内外での活動をより充実出来る様に、各園と情報の共有を図るとともに、保育の質を高められる様に取り組みます。

#### 2 学童保育の推進について

「勝原学童保育会」、「旭学童保育会」、それぞれ第 1、第 2 の 2 単位ずつ、計 4 単位を運営します。就学児童数は減少していますが、学童保育ニーズは年々増加しています。勝原学童は 2 単位合計の登録児童 74 名、旭学童は合計 113 名で新年度を迎えます。受入児童数に応じた保育の充実を目指し、職員、特に有資格者 (放課後児童支援員) の確保をはかりつつ、進和学園の人材、プログラム、機能等で総合的に学童保育の運営をバックアップします。コミュニケーション、学び、遊びのデジタル化といった情報環境の変化、家族形態や保護者世代の個人々の価値観の多様化など、児童を取り巻く社会生活環境が変わりゆく中、学童保育における健全育成の意味、意義に真摯に向き合い問い続けながら児童一人ひとりの成長発達に寄り添い支えます。また、進和学園ならではのさまざまな福祉とのふれあいを企画、提供し、人それぞれに異なる多様なあり方を誠実に受けとめ認め尊重する、豊かな人間性と人格の形成に寄与できるよう努めます。

#### 3 放課後等デイサービスの推進について

「ビーライトしんわ」は比較的重度の障害を有する小学校高学年と中高生を対象とする放課後支援を提供します。「しんわブライト」は知的な遅れはないものの集団社会適応にさまざまな課題を抱える発達障害児を対象とするグループ活動を基盤とする総合的発達支援プログラムを提供します。

平塚市内の放課後等デイサービス事業所はこの 14 年で 9 ヶ所から 40 ヶ所に増加しました。利用の分散、複数事業所の併用、就学前から同一事業所を長期継続利用することの主流化、共働き世帯の増加による学童保育代替ニーズの拡大、学習支援・就労準備支援・理学療法・作業療法・言語聴覚療法・心理療法・芸術療法といった細やかな個別ニーズ対応を謳ったサービス支援の台頭など、地域の事業環境は大きく変化しています。この変化の中で差別化をはかり競争力を高め、地域の支援ニーズに応えながらも収益性を確保しうる、進和学園ならではの事業運営形態を模索し続ける必要があります。

ビーライトしんわは、強度行動障害を始めとする多様な発達特性への専門性を高めると共に、進和学園の施設が提供する短期入所や日中一時支援を組み合わせた総合支援の提案を行うほか、実習を含めた学園施設利用時の情報提供・共有を独自性の高い付加価値として打ち出し、ライフステージ、ライフサイクルに沿った支援の在り方に関する探求と実践を積み重ね、効果的な支援モデルの構築と提案につなげていけるよう努めます。

しんわブライトは、令和7年12月に実施した2単位運営の1単位への統合による高い稼働の維持、向上により収益性を確保します。独自性の高いサービス支援内容について、わかりやすく魅力が伝わりやすい表現手法を模索しホームページに掲載するほか、保護者と支援者が高い関心を寄せる内容の講演や学習会などを開催し積極的に発信することを通じて、認知度向上、興味喚起、利用希望につなげられるよう努めます。総合的発達支援プログラムの実践のみならず、学校巡回相談や通級指導教室の指導方法提案・助言を通じて培ってきた発達障害支援に関する高い専門性について、令和8年度より「湘南西部障害保健福祉圏域 発達障害支援体制整備事業」を受託することにより収益化と地域貢献の継続を両立します。

#### 4 進和やましろホームの整備計画について

現在の進和やましろホームの施設入所支援の定員は60名ですが、重度化高齢化により退所された方が多く、また法人内施設でも一番古い建物となっています。今まで個室化を進めてきましたが、まだまだ個室の数が確保できていません。利用者ご本人の障害特性を考慮すると、個室化及び少人数で利用できるスペースが必要となります。また変電設備の経年劣化に伴う改修工事が必要になりました。令和8年度事業で進めていきたいと考えていますが、昨今の世界情勢や社会情勢により、工期の見通しが立ちにくくなっています。別紙資料にて、『やましろホーム変電設備（キューピクル）改修工事（案）』を提出いたします。

#### 5 多様なニーズに対応するグループホームについて

現在グループホームは中軽度の方が主に利用していますが障がいの重い方、高齢の方なども利用するケースが増えてきております。グループホームを希望される理由としては入所施設の定員枠が空かないため、少人数の暮らしを希望しているため、自立生活を体験するため、などがあります。よって多様化するニーズに対応できるようなグループホームが必要となります。休日・夜間体制の人員配置強化、身体的介護、健康管理、栄養管理の強化が求められます。グループホームの11か所の共同生活住居については、ご本人のニーズに合わせて住居ごとに特色のある支援体制を整備してまいります。特に入所、在宅からの体験利用を促進する体験型グループホームの必要性があります。法人で取得した万田地区一戸建て住宅を体験型グループホームとしてやましろホームと協同で検討してまいります。

#### 6 相談支援事業について

令和6年1月より平塚市障がい福祉課に基幹相談支援センターが開設されました。サンシティは平塚市より知的障がい者の相談支援の業務委託を受けているため、基幹相談支援センターと連携しながら平塚市地域生活支援拠点の登録事業所としても相談支援事業を推進します。

平塚市委託の相談業務においては年々発達障がいや家族支援が必要な場合等難しいケースが増えています。特に8050問題にて介護事業所や市役所と連携しての引きこもりのケースが目立ってきました。一般相談およびサービス等利用計画作成のもと相談支援を行ってまいります。また神奈川県が推進する意思決定支援を行う各施設の要請に相談として参加、協力、推進してまいります。

サンシティにおける就労支援である障がい者就業・生活支援センター事業は、湘南西部圏域（平塚、伊勢原、秦野、大磯、二宮）の広域事業であり、地域の就労支援の中核として活動を行っています。登録者が年々増え続けており現在950人以上と非常に多くの方から必要とされています。新規就労や就労した後の定着支援のニーズが非常に高まっており、特に精神障がい、発達障がいのある方の相談が非常に増えています。

神奈川県地域就労援助センター事業では、相談者の希望、適性に応じた仕事に就けるよう一般企業への就労だけでなく福祉的就労についても関係機関と連携して支援をしてまいります。他にも県雇用労政課が実施するフリーランス支援事業の受託者と連携しフリーランスを目指す障がい者への相談支援を行ってまいります。また特別支援学校以外にもサポート校、インクルーシブ教育実践推進校とも連携し、切れ目のない支援で就職した方の定着支援に努めます。企業からの雇入れ相談も増えており、地域の企業からも必要とされています。さ

らに令和6年4月より企業の法定雇用率の引き上げにより、一層障がい者の一般企業への就労の促進が予想されます。各関係機関（企業、労働行政、福祉サービス、教育）との連携の上、地域の障がい者就労支援の基幹としての役割を担い、障がい者雇用促進を図り、多くの方々の支援に努めます。

## 7 意思決定支援について

利用者ご本人の意思が反映された生活を送ることを目指し、各事業所にて意思決定支援プロジェクトチームを中心として、ヒアリングシートの作成を拡げてきました。そのヒアリングシートからご本人の意思や選好を推定し、個別支援計画に反映させ、利用者支援に当たっていきます。また、継続的に県職員や県が派遣する意思決定支援専門アドバイザーの指導や助言等を受けながら意思決定支援に向けた取り組みを行っていきます。

## 8 生活体系の推進について

- ① 高齢化、重度化に対し、健康管理に最大限配慮するとともに、医療機関と連携して早期発見、早期治療に努めます。また一人ひとりに個別的な支援が必要なため、介助技術・強度行動障害支援など専門的知識を学びつつ支援の向上を引き続き図っていきます。感染症、衛生面に対しても、保健、給食との総合的協力体制のもと徹底してまいります。
- ② 地域生活支援の拠点機能の推進として、在宅の方、グループホーム、単身生活者等を支えるため、各入所施設を中心に、緊急受入れの短期入所、日中一時支援、災害時の防災拠点、相談機能、専門性推進等の機能を強化していきます。県市行政、他法人、福祉関係団体等との連携もおこない、「人権」「福祉教育」「防災」等に取り組んでまいります。

## 9 作業体系について

世界的な経済情勢の不安定化や国際的なサプライチェーンの変動が続く中、作業体系については、引き続き自動車部品組立作業を安定的に推進するとともに、自主生産作業では「選択と集中」を基本に、新たな作業種への挑戦や既存作業の拡大を図ります。外部環境の変化に柔軟に対応しながら多角化を進めることで、利用者の社会的自立につながる賃金・工賃の安定を目指してまいります。

- ①ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業様のご支援のもと発注をいただき、来年度で52年目を迎えます。次世代自動車の開発が加速し、業界全体がEV化へ大きく舵を切る中で、従来作業の量は減少傾向にありますが、(株)研進と連携し、EV時代に対応した新たな受注の確保に積極的に取り組んでまいります。引き続き「顧客満足」と「不具合ゼロ」の実現を最優先に、ISO9001:2015年版の運用を徹底し、高品質な生産体制の維持・強化に努めてまいります。
- ②製パン事業は、サンメッセしんわとしんわルネッサンスで連携のもと製造・販売の拡大を図ります。各種イベント等へ積極的に出店し、販路の拡大を図り新商品の開発、工賃確保に努めます。安心・安全な製造を心がけ学校給食の受注継続を推進してまいります。今月6日から8日に横浜赤レンガ倉庫で開催された「パンのフェス アワード」において、新商品まるごと石焼きいもぱんを出展しましたが受賞には至りませんでした。合わせて、製菓作業についても安定した受注、新商品の開発を推進してまいります。しんわルネッサンスは、3年目を迎えさらなる技術の向上と品質の安定を図ると共に消費者の動向等を把握し、新商品の開発やインターネット販売による販路の拡大を図ります。
- ③食品加工事業は、ルネッサンスにて製造を開始し13年目を迎えました。HACCPに基づく品質・衛生管理を徹底しながら、取引先件数の増加に対応し、安定した受託加工の提供に努めます。本年度も品質管理を強化し、6次産業化ネットワークの活動を継続しつつ、安全衛生管理の徹底を図ります。また、気候変動やトマト農家の減少による原料不足に対応するため、関係機関と共有し安定的な原料調達を推進します。
- ④公共事業との取り組みは、サンメッセしんわを中心に平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、商工会との連携のもと商品開発、イベントへの参加により販路の拡大を推進します。サンメッセしんわのみかんぱん、しんわルネッサンスのトマトジュースは平塚市ふるさと納税返礼品に登録され、湘南ひらつか名産品にも認定されております。今後も地域、関係団体との連携強化に努めてまいります。
- ⑤施設外就労は、継続して地元しまむらストア様のバックヤード作業と環境整備等の作業請負、平塚市か

ら受託している高麗山公園清掃、(株)ゴバイミドリ様(いのちの森づくり作業請負)については継続して取り組んでまいります。

- ⑥在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用は、しまむらストア様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となります。今後も多角化に向け制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めてまいります。
- ⑦いのちの森づくり事業は、(株)研進と協同で学校の森づくりをはじめ、湘南国際村等の植樹祭に参加します。令和8年度の計画は植樹、出荷で20,000本を目指します。また他法人施設との連携(どんぐりブラザーズ)にも努めます。
- ⑧ルネッサンスは、湘南西地区及び平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワークの構築、受注作業のマッチング機能を推進します。優先調達等の受注量も増加傾向にあり更なる協力体制の推進に努めてまいります。
- ⑨「ともしびショップ湘南平」は、障がいのある方の就労と社会参加の場としての役割を推進し、社会資源としての多様な活用を図ります。サンメッセしんわと一体的に運営することで、1階の喫茶部門「湘南リトルツリー」はホットケーキを中心に自主生産品を活用したメニューの開発、2階は展示販売他、各種イベントやレンタルスペースとしての有効活用などを推進してまいります。地域交流の拠点として、安心・安全な運営に努めてまいります。
- ⑩平塚市役所の1階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は、本年7月で丸12年を迎えます。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となり、平塚市の協力のもと本年も進和学園が、その事務局を担当します。令和7年度に平塚市・東海大学交流提携40周年記念事業で学生さんと共同開発した商品や誕生したイメージキャラクター「ありまる」くんを活用して運営の理解促進と販売促進に努めてまいります。また生産事業推進会議パフォーマンス部会のFM湘南ナパサ78.3MHzのラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜20:00~20:30)に利用者ご本人と共に参画しております。FM湘南ナパサ局も番組への協力、理解を示していただいています。本年も福祉現場からの情報発信、福祉啓発、ご本人の個性あふれるパフォーマンス、とびっきりレインボーズ(器楽同好会)のオリジナル曲・ライブ音源などを発信して「ともに生きる」メッセージを、ラジオを通して伝えてまいります。

令和8年3月26日  
社会福祉法人 進和学園